

介護福祉学科 キャリア教育・実践的職業教育

介護福祉教育への取り組み状況

介護福祉士創設以降の変化と現在そして将来の介護ニーズに対応し、介護サービスにおける中心的役割を担える人材を育成できるよう、領域「人間と社会」、「介護」、「こころとからだのしくみ」、「医療的ケア」においてカリキュラム編成（1906時間）しております。

キャリア教育への取り組み状況

講義による知識と介護実習における経験を2年間でバランスよく配置することで、学んだ知識を実習先で見て経験し、確かな知識と技術の修得ができるようにしています。また介護は知識と技術はもちろん必要ですが、それを扱う人間性も重要となります。講義や実習でも培われますが、学生主体で地域の文化祭にブースを出すことやスポレク大会を企画・運営などをすること、また他の学科の学生とケースカンファレンスをするなどを通して、人間性を育み、連携する大切さを学びます。

実習、実技への取り組み状況

2年間で4回の実習がありますが、それぞれの実習前には講義の中で実習を指導している指導者や職員を招き、介護福祉士に求められる知識や技術だけでなく、実習に取り組む姿勢について聴講し、実習への不安を無くし、目標をもって実習に臨めるようにしています。また実習中に教員が週1回以上巡回指導に行くことや学生主体のカンファレンスを実施することで、指導者や教員からスーパービジョンを受けられるようにしています。

就職支援への取り組み状況

卒業年度の学生に対して、いくつかの施設や事業所に学校へ来ていただき就職説明会を実施しています。また、学生の必要に応じて個別面談を実施、学校へ送られてない求人票は取り寄せて提示しています。また紙面だけで判断するのではなく、実習や見学を通して就職先を決めています。就職試験を受ける際には、就職希望先の試験に応じて、面接指導や作文添削指導などを行い、サポートしています。

資格取得への取り組み状況

毎朝、確認問題を実施しています。模擬試験は外部の模試を取り入れ、3回を本校で実施、1回は外部会場で一般の受験者とともに実施しています。国家試験を受験する最終学年時は国家試験対策の時間を作り、自己の学習時間、講師や教員による対策講座の時間とし、国家試験全員合格を目指します。